2026年10月30日

各　　位

会 社 名　ハリマ化成グループ株式会社
代表者名　代表取締役社長　谷中 一朗
（コード：4410、東証プライム）
問合せ先　常務執行役員
経理・財務グループ長 上辻 清隆
（TEL.　06-6201-2461）

第2四半期(中間期）連結業績予想と実績との差異､通期連結業績予想の修正、剰余金の配当（中間）および配当予想（期末）の修正(増配)に関するお知らせ

2026年4月30日に公表いたしました2027年3月期第2四半期（中間期）（2026年4月1日～2026年9月30日）の連結業績予想と本日公表の実績値との差異が生じましたので、お知らせいたします。また、最近の業績動向等を踏まえ、2027年3月期通期（2026年4月1日～2027年3月31日）の連結業績予想を修正いたしましたので、併せてお知らせいたします。

さらに、当社は2026年10月30日開催の取締役会において、2027年3月期の中間配当および期末配当予想について、下記のとおり修正（増配）することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

Ⅰ．業績予想値と決算における実績値との差異について

2027年3月期第2四半期（中間期）連結業績予想と実績の差異（2026年4月1日～2026年9月30日）

（単位：百万円，％）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	1株当たり中間純利益
前回発表予想（A）	54,500	1,400	1,050	1,450	59.68円
今回発表実績（B）	60,407	3,630	3,469	2,714	111.55円
増減額（B－A）	5,907	2,230	2,419	1,264	－
増減率（％）	10.8	159.3	230.4	87.2	－
（ご参考） 前期第2四半期（中間期）実績 （2026年3月期第2四半期(中間期)）	51,248	1,633	1,296	834	34.35円

Ⅱ．差異が生じた理由

当第2四半期（中間期）の業績は、樹脂・化成品事業では、需要増加により塗料用樹脂、半導体レジスト用樹脂が増収となり、売上高は増加しました。製紙用薬品事業では、紙力増強剤が販売価格の見直しにより増収、電子材料事業では、はんだ付け材料が原材料高騰による販売価格の見直しにより増収となり、ローター事業は、主力製品の水系粘着付与剤は、北米で減少しましたが、北米で路面標示塗料用樹脂が増加したことに加え、南米でガムロジンやテレピン油が好調に推移したこと、印刷インキ用樹脂が販売数量減ではありましたが、販売価格の見直しで、前回の予想より増収となりました。全体として売上高は、前回の予想を上回りました。

営業利益につきましては、売上高増収により、前回の予想を上回りました。また、経常利益につきましては、営業利益増益に加え、持分法による投資利益を営業外収益に計上したため、前回の予想を上回りました。

親会社株主に帰属する中間純利益につきましては、経常利益増益に伴い、前回の予想を上回りました。

Ⅲ．業績予想の修正

2027年3月期通期連結業績予想数値の修正（2026年4月1日～2027年3月31日）

（単位：百万円，％）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	110,000	3,500	2,800	2,650	109.07円
今回修正予想（B）	125,000	5,800	5,000	4,400	180.83円
増減額（B－A）	15,000	2,300	2,200	1,750	－
増減率（％）	13.6	65.7	78.6	66.0	－
（ご参考） 前期実績（2026年3月期）	103,763	3,283	2,996	2,345	96.56円

Ⅳ．修正の理由

通期の業績予想につきましては、売上高は、中間期の業績動向が下期においても継続すると見込まれることから、前回予想を上回る見込みとなりました。

営業利益および経常利益につきましては、増収が見込まれる一方で、中東情勢の先行きが不透明であり、原材料価格の上昇も見込まれることから、下期は中間期と比較して厳しい事業環境が続くものと想定しております。しかしながら、中間期における利益が当初想定を上回ったことから、通期では前回予想を上回る見込みとなりました。

また、先日開示いたしましたとおり、特別利益として株式売却益約37億円、特別損失として減損損失等約28億円を計上することにより、親会社株主に帰属する当期純利益につきましても、前回予想を上回る見込みとなりました。

※上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。

Ⅴ．剰余金の配当（中間、増配）の内容

	決定額	直近の配当予想 （2026 年 4 月 30 日公表）	前期実績 （2026 年 3 月期）
基準日	2026 年 9 月 30 日	同左	2025 年 9 月 30 日
1 株当たり 配当金	25 円 00 銭 （普通配当 23 円 00 銭） （特別配当　2 円 00 銭）	21 円 00 銭 （普通配当 21 円 00 銭）	21 円 00 銭 （普通配当 21 円 00 銭）
配当金の総額	609 百万円	－	510 百万円
効力発生日	2026 年 12 月 3 日	－	2025 年 12 月 3 日
配当原資	利益剰余金	－	利益剰余金

Ⅵ．配当予想（期末）修正（増配）の内容

	1 株当たり配当金		
基準日	中間	期末	合計
前回予想		21 円 00 銭 （普通配当 21 円 00 銭）	42 円 00 銭 （普通配当 42 円 00 銭）
今回修正予想		25 円 00 銭 （普通配当 23 円 00 銭） （特別配当　2 円 00 銭）	50 円 00 銭 （普通配当 46 円 00 銭） （特別配当　4 円 00 銭）
当期実績	25 円 00 銭 （普通配当 23 円 00 銭） （特別配当　2 円 00 銭）		
前期実績（2026 年 3 月期）	21 円 00 銭 （普通配当 21 円 00 銭）	21 円 00 銭 （普通配当 21 円 00 銭）	42 円 00 銭 （普通配当 42 円 00 銭）

Ⅶ．修正の理由

当社は、株主の皆様への配当につきましては、安定した配当を継続して実施するとともに、将来の企業価値向上による株主利益の増大をめざした積極的な事業展開に備え、内部留保の充実に努め経営基盤の強化を図りながら、業績動向、配当性向を勘案して実施することを基本方針としております。

つきましては、株主の皆様への日頃のご支援にお応えするため、2027 年 3 月期の中間配当および期末配当に当初予想からそれぞれ普通配当を 2 円、特別配当を 2 円増配し、1 株当たり 25 円の配当を実施する予定といたしました。年間合計では、1 株当たり 50 円となります。

以　上